

令和5年12月定例会 あいさつ

皆さまおはようございます。

本日ここに、久山町議会12月定例会を招集いたしましたところ、議員全員の皆さまにご出席を賜り、誠にありがとうございます。

いよいよ2023年も残り1カ月となりました。今年を振り返ってみますと、5月に新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられ、私たちの暮らしも日常に戻りつつあると感じる機会が多くなりました。本町におきましても、町民の皆さまのご理解、ご協力により、一斉検診をはじめ、コロナ禍で中断、延期していた事業など、イベントについても規制がなくなり、10月の祭りひさやまでは、約4,600人を超える皆さまが来場され、出店や花火などを楽しまれました。また、5月に糟屋地区1ブロック文化講演会、先月は第21回糟屋地区美術展がレスポアール久山で開催され、文化を通じた町内外の交流も活発に行われました。

しかし、世界では昨年2月から続くロシアのウクライナ侵攻、そして、本年10月に始まったイスラエルとハマスの戦闘など、国際情勢は一段と不安定化しており、食料やエネルギーなどの原材料費の高騰に加え、急激な円安は、物価高を招き、私たちの生活に大きな影響を与えています。

そのため政府は、11月に臨時閣議において、賃上げ、国内投資の促進を盛り込んだ総合経済対策を進め、物価高騰対策として、所得税と住民税の減税や低所得者向け給付を決定しました。国と地方自治体、民間投資を合わせた経済対策の事業規模は37.4兆円にも上り、現在、国会での成立を目指しています。今後も国の動向を注視しながら、物価高騰対策等に取り組んでまいります。

さて、今年の干支である卯年は飛躍・向上の年と言われており、本町にとっても、町の魅力が広く認知され、高まった年であったと感じております。その一つとして、9月から日本最大級の経済動

画サービス、テレ東BIZにおいて、地方創生の先進地で注目を浴びる徳島県神山町に続き、本町のまちづくりや町で活躍する方々の特集が放送されており、全国に本町のよさを伝えることができる機会をいただきました。

この機会を通じて、私自身、町民の皆さんが、先人たちの行動や思いを引き継ぎ、未来につなげていくという町民の皆さまの意識の高さ、素晴らしさを感じるとともに、改めて久山町の無限の可能性を実感することができました。

時代は、これから激しく変化していき、予測困難な状況が想定されます。しかし、私たちは、30年後、50年後の未来に、先人たちが残してくれた久山町の魅力や強み、可能性をつないでいかなければなりません。これからも変化に対応しながら、先人たちと同様に住民の皆さまとともに、未来を見据え、次世代につながるまちづくりを推進していく所存でございます。引き続き、議会の皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

最後に、本12月議会定例会に提案いたします案件は、工事請負変更契約、条例の制定・改正および補正予算など6議案でございます。

詳細につきましては、担当課長よりご説明を申し上げますので、ご審議のほどよろしくお願い申し上げます。私のご挨拶とさせていただきます。

令和5年12月5日

久山町長 西村 勝